

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.

2924

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催方法	■対面（ 浜田キャンパス ）		
				□オンライン（同時・録画・資料提示）		
				□対面（ ）・録画		
2. 科目名	正式科目名	地域文化論			クラス名	2・3・4
	副題				配当年次	
	旧科目名	受入学年				
	学問分野	番号	1 1	名称	文化・文学	
	サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群	
3. 担当教員名	濱田 恒志					
4. 単位数	2 単位	5. 開講学期	秋学期（集中）			
6. 開講期間 曜日・時間	2022年2月15日（火）～ 2022年2月18日（金） 集中講義 9:00～ 18:00					
個別開講日	1回目 2/15	2回目 2/16	3回目 2/17	4回目 2/18	5回目 /	6回目 /
	7回目 /	8回目 /	9回目 /	10回目 /	11回目 /	12回目 /
	13回目 /	14回目 /	15回目 /	16回目 /	試験日	/
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 （総授業定員）	5 人 （ 人）		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		

10. 科目内容・授業計画	<p>本講義では島根県に伝わる文化財、とりわけ宗教美術を題材とし、日本の宗教美術史の動向と照らし合わせながら、その特質について論ずる。講義の中ではなるべく多数の作品画像をスライドで紹介し、造形の観察を通じて上記のことを学んでいく。また後半では、現代社会において地域文化を支える仕組み、すなわち文化財保護制度と博物館について、その機能や役割を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>島根に伝わる文化財が、わたしたちの社会において、なぜ・どのように重要なのか、自分の言葉で説明できるようになる。</p> <p>第1回：ガイダンス・美術史の方法 本講義の目的と評価方法について説明のうえ、日本美術史の基本的な考え方を解説する。</p> <p>第2回：飛鳥時代の仏教美術 飛鳥時代の主要作例と山陰地方の同時代作例について解説する。</p> <p>第3回・第4回：奈良時代の仏教美術 奈良時代の主要作例について、特に宗教的役割に焦点を当てながら解説する。また、山陰地方の同時代作例について解説する。</p> <p>第5回・第6回：平安時代前期の仏教美術 平安時代前期における平安京周辺の主要作例と、県内の作例を含めた地方造像の展開について解説する。</p> <p>第7回：平安時代後期の仏教美術 平安時代後期の主要作例と県内に伝わる同時代作例について解説する。</p> <p>第8回：神像彫刻 神像彫刻の造形的特質について、県内の作例を中心に仏像と比較しながら解説する。</p> <p>第9回：鎌倉時代の仏教美術 鎌倉時代の主要作例と県内に伝わる同時代作例について解説する。</p> <p>第10回：南北朝・室町時代の美術 南北朝・室町時代の主要作例と県内に伝わる同時代作例について、宗教美術と他分野の美術を比較しながら解説する。</p> <p>第11回：江戸時代・近代の宗教彫刻 江戸時代・近代の宗教彫刻について、両時代の連続や美術的価値の転換などに焦点を当て、県内の作例を含めて解説する。</p> <p>第12回：文化財保護の仕組み 文化財保護法などを題材にししながら、現代社会における文化財保護の目的・方法・制度について学ぶ。</p> <p>第13回：博物館の機能と役割 博物館法などを題材にししながら、博物館の定義、機能、現代社会において期待される役割を論ずる。</p> <p>第14回：博物館と資料 博物館における資料収集・調査研究・保存管理の概要について、具体的事例に基づきながら解説する。</p> <p>第15回：博物館の展示 博物館における展示の目的や方法について、具体的事例に基づきながら解説する。</p> <p><教科書> 特定の教科書は使用せず、毎回資料を配付する。ただし作品画像は配布しないので、下記参考文献などを参照するとよい。</p>		
11. 試験・評価方法	試験（80%）、平常点（20%）		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	<p><参考文献> 辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』美術出版社、増補新装版 2003年 山本勉『仏像 日本仏像史講義』（別冊太陽）平凡社、2013年（平凡社新書 2015年、新版 2020年） 編集委員辻惟雄ほか『日本美術全集』1～20、小学館、2015～2016年 島根県立古代出雲歴史博物館編『島根の仏像』同館、2017年 島根県立古代出雲歴史博物館編『島根の神像彫刻』同館、2018年 島根県文化財愛護協会編『しまねの文化財』島根県文化財所有者連絡協議会、2018年 伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』学苑社、1978年 栗田秀法編『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、2019年</p> <p><その他> 初回と最終回（試験）は必ず出席すること。また集中講義開講の前に、上記参考文献を参照したり博物館・美術館に足を運んだりすることで、美術作品や博物館の実際に親しんでおくとよい。</p>		
14. サテライト科目の 社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料提示）へ変更になる場合があります。